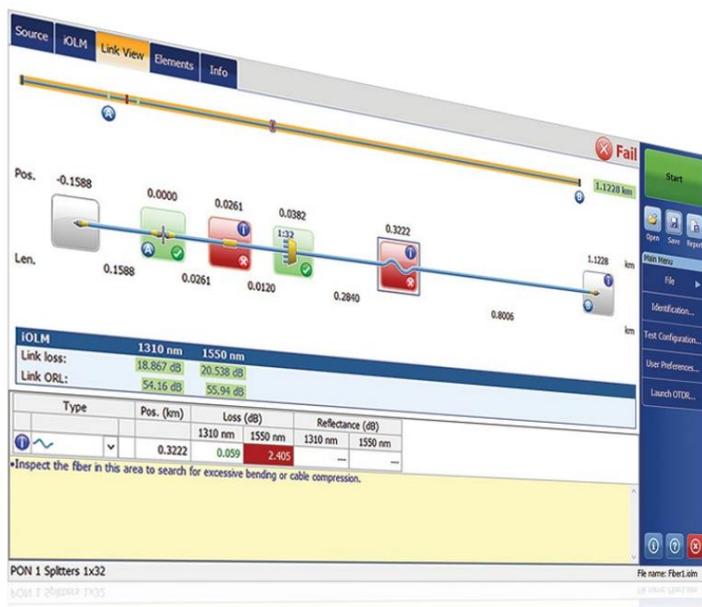


# インテリジェント光リンク マッパー (iOLM)

OTDR ベースのアプリケーションにより、専門家レベルのファイバー テストを誰でも利用できるようになります



すべてのネットワーク トポロジの特性評価精度を最適化しながら、OTDR テストを簡素化します。iOLM は、コンテキストに適用できるインテリジェントなアルゴリズムを搭載しています。iOLM は、業界で依然として比類のないもので、すべてのネットワーク コンポーネントと障害を最大限の解像度で動的に特定します。

ボタンを押すだけですべて完了します。



上で利用可能：

- MaxTester 700B/C OTDRシリーズ
- FTBx-700C OTDRシリーズ
- FTB-7000E OTDRシリーズ

## 主な特徴

自動設定ユニットはあらゆるファイバーリンクに動的に適応します

単一のアイコンベースのリンクビューでの複数の波長でのインテリジェントなマルチ収集

総合的な故障診断と指導

統合された双方向リンクビュー (特許出願中)

OTDR トレース ファイルの生成 (.sor)

エンタープライズ/データセンター向けの TIA/IEC 自動合否しきい値 (オプション)

ループバック テスト モードで 2 本のファイバーを同時にテスト (オプション)

## 主要なネットワーク アプリケーション

ポイントツーポイント (P2P) アクセス

FTTx ラストマイル

LAN/WAN、エンタープライズおよびデータセンターの認定

FTTx/PON MDU

フロントホール (FTTA、DAS、スモールセル) とバックホール

FTTHアンバランス/テーパーPON

パッシブ光LAN (POL)

メトロコアと長距離路線

CWDM/DWDM

ケーブル認証 (IL/ORL測定)

マルチファイバ MPO ケーブルの特性評価

## 互換性のあるプラットフォーム

FTBファミリープラットフォーム



ハンドヘルドOTDR  
MaxTester 700B/Cシリーズ



FTB-1v2/  
FTB-1 プロ



FTB-2/  
FTB-2プロ



FTB-4 プロ

## OTDR テストを超えて

EXFO ではイノベーションが最前線であり、インテリジェントな光リンク マッパー (iOLM) は革新的なソリューションの代表的な例です。iOLM を使用すると、OTDR の能力を最大限に活用でき、自動化を新たなレベルに引き上げ、あらゆるスキル レベルの技術者がすぐにテストのエキスパートになれるようになります。

iOLM は、EXFO のファイバー テストの専門知識をシンプルで使いやすいソフトウェアに統合し、OTDR テスト機能を強化します。

さらに、EXFO は、特定のアプリケーションに可能な限り最高のパフォーマンスを提供するために各 OTDR モデルを設計および最適化し、お客様のニーズと状況に合わせてカスタマイズされたソリューションを提供します。

## iOLM | intelligent Optical Link Mapper

### iOLM—OTDR テストから複雑さを取り除く

OTDR テストには課題も伴います...



これらの課題に取り組むために、EXFO は光ファイバーをテストするより良い方法を開発しました。



実際の動作をご覧ください: [iOLM の仕組み](#)

どのように機能するのでしょうか?

動的  
マルチパルス  
取得



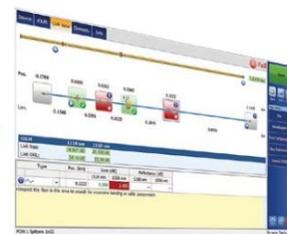
知的  
トレース分析



すべての結果  
に結合  
シングルリンクビュー



包括的な  
診断



iOLM は、必要に応じて短パルス、中パルス、長パルスを組み合わせて使用して、テスト対象のリンクのテストパラメータを動的に調整します。

iOLM は複数の取得に基づき、高度なアルゴリズムを利用して、最大の解像度でより多くのイベントを検出できます。

結果はアイコンベースのファイバーリンクビューに視覚的に表示され、選択した規格ごとに各イベントの可否ステータスを迅速に評価できるため、誤解のリスクが排除されます。

失敗したイベントを分析し、解決策を提案します。技術者が障害を迅速かつ適切に修正できるようガイドします。

従来の OTDR テストを、あらゆるスキル レベルの技術者にとって、明確で自動化された初回の適切な結果に変えます。

### iOLM のメリットを享受する 3 つの方法

1

OTDRコンボ (オイコード)  
iOLM と OTDR を実行する  
1台にアプリケーションを搭載

2

アップグレード  
現場にいるときでも iOLM ソフトウェア オプションを追加

3

iOLMのみ  
iOLM アプリケーションのみを含むユニットを注文する

## 独自の機能 (iOLM 標準に含まれる)

### シングルエンドファイバーの導入が簡単に



#### Link-Aware™ テクノロジー

テスト実行の最適化: ワンクリックで、ユニットはリンク認識を自動的に実行し、最適なパラメータを設定し、複数の波長で複数の取得と分析を開始し、すべてのリンクセクションとすべてのネットワーク要素で得られた結果を統合します。各リンク要素に関する正確な情報をすぐに取得し、単一のレポートにエクスポートします。



#### 自動設定ユニット

エキスパートになる: Link-Aware™ テクノロジーを活用した iOLM は、すぐに使用できるインテリジェンスを実現するためにすべてのテスト パラメーターの設定を自己管理し、学習曲線を大幅に短縮します。トレーニングを最小限に抑え、テストの構成ミス回避し、技術者の銅線からファイバーへの移行を促進します。



#### 光リンクビュー

データの処理: 複雑な OTDR トレースを残して、簡素化されたリンク マッパーは、明確なアイコンと合否判定により、テスト対象のファイバーを直接表示します。実際の結果を得る: イベントの特性評価とファイバーのステータスを含む、リンクのエンドツーエンドの視覚的評価。



#### インテリジェントな診断

iOLMは、無数のアルゴリズムと潜在的なネットワーク障害のデータベースを搭載しており、ネットワークの問題解決プロセスをガイドします。誤解を追跡する必要はなくなり、最も経験豊富な技術者だけでなく、すべての技術者がネットワークの問題をその場で効率的に解決できるようになります。



#### OTDR トレース ファイルの生成既存の手順に

適合: iOLM は、既存のレポートおよび後処理要件に準拠する、汎用および拡張 Bellcore 形式 (.sor) OTDR トレースを生成できます。この OTDR トレースは、iOLM によって収集されたすべての追加情報を統合し、より完全な結果を提供します。



#### リンクごとに 1 つの iOLM ファイル

テスト結果の統合: iOLM は複数の取得に基づいてより多くのリンク情報を提供しますが、特定のリンクに大量の乱雑なファイルが表示されて煩わされることはありません。iOLM はレポート作成を簡素化します。現場で得られるものは、PC 上で見て処理できるものです。



#### 双方向分析

プロセスと結果の自動化: 正確な接続特性評価を確実にするために推奨される、双方向解析は両方向からの結果を組み合わせ、各イベントの平均損失を提供します。iOLM で双方向解析を使用すると、統合されたビューだけでなく、両方向での最大分解能 (複数の波長での複数のパルス幅) の恩恵を受けることができます。iOLM は、シングルエンドとデュアルエンドの両方の自動 BIDIR ソリューションに適しています。



#### iOLM

P2P、集中型 PON、カスケード PON、またはアンバランス/テーパー型 PON (標準 iOLM でカバー) など、あらゆるネットワーク トポロジをサポートします。

## 最適化: 状況に応じたテスト

オブティモードは、特定のユースケースを最適化し、認識されている iOLM パフォーマンスをさらに上回るように調整されたテスト構成です。

### Optimode: ショートリンククローズイベント

#### アプリケーション: アンテナへのファイバー (FTTA)、データセンター、FTTx、中央オフィス

このオブティモードは、コネクタが近い短いリンクに合わせて調整されており、これまでに達成された最高の解像度を提供します。隠れたコネクタによって誤った障害 (マージ損失) が発生することも、障害のあるコネクタを推測する必要もありません。タワーに登るときは、問題を迅速かつ安全に解決するために、問題のあるコネクタがジャンクション ボックス (1) に給電しているのか、リモート無線ユニット (RRU) に接続するジャンパ (2) に給電しているのかを確認する必要があります。これにより、設置時間と修理時間の両方が短縮されます。

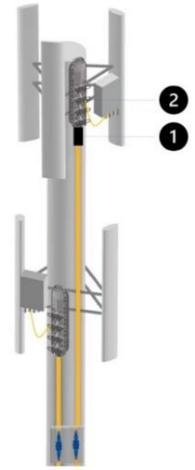
密集したパッチ パネルを備えたデータ センターやセントラル オフィスのトラブルシューティングでは、密集したコネクタを切り離すことも重要です。

仕様	720Cシリーズ	730C/735C/750Cシリーズ
最大リンク長さa	2500メートル	2500メートル
最大リンク損失	8dB	10dB
5mパッチコードの検出b,c	最大 2.5 dB の損失	最大 3.5 dB の損失

a. 全長、単方向またはループバック全体 (発射ループ、および受信ファイバーを含む)。

b. 1550 nm では、反射後のファイバ長が -55 dB 以下で、イベント前のファイバ セクションが検出可能でなければなりません。

c. 典型的な。



FTTA ジャンクション ボックスと RRU を接続するジャンパー。

### 最適モード: 高速ショート リンク (FSL)

#### アプリケーション: データセンター、エンタープライズ LAN/WAN、FTTA

FSL Optimode は、大容量のコンテキストで短いコネクタ化されたリンクを迅速にテストするように設計されています。通常の iOLM 特性評価よりも最大 5 倍高速にテストし、正確なリンク損失、長さ、およびリンクの高レベルのマッピングをすべてファイバーあたり 10 秒未満で提供します。FSL Optimode は、強力なマルチパルス幅 iOLM テスト ユニートを、短い光ファイバー リンクの迅速な評価を可能にする非常に高速な検証ツールに変えます。

仕様	マックステスター 715B	720C	730C/735C	750°C
ファイバーの種類	シングルモード	マルチモードa	シングルモード	シングルモード
最大リンク長さ <sup>b</sup> (メートル)	2500	800	2500	10000
最大リンク損失 シンプレックス (dB)	3	4	3	6
デュプレックスc (dB)	5	6	5	8
測定時間d (秒)			< 10	

a. 850nmのみ。

b. 全長、単方向またはループバック全体 (発射ループ、および受信ファイバーを含む)。

c. ループバックモードでの二重測定。iLOOPをアクティブ化する必要があります。

d. 発射および受信キャリアレーション シーケンスを除く、シンプレックス モードおよびデュプレックス モードでの波長ごとの一般的な合計時間。

### オブティモード: 高速中距離 (FMR)

#### アプリケーション: FTTH フィーダおよび配電ケーブルの特性評価、DCI、バックホール

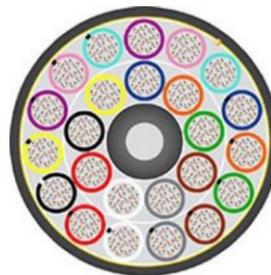
FMR Optimode は、大量のコンテキストで P2P スプライズされたリンクを迅速にテストします。

診断が組み込まれた自動化ソリューションの容易さ、動的マルチパルスによる精度、速度の間のジレンマはもうありません。

30 秒以内に、2 つの波長で 20 km 未満のリンクの特性を評価します。

仕様	
ファイバーの種類	シングルモード
2 つの波長の試験時間a (s)	< 30

a. 730C シリーズを使用した、一般的な 20 km リンクの場合。



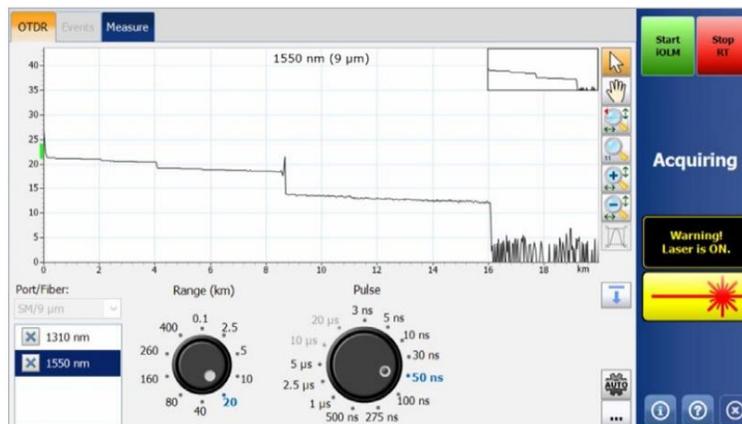
3456 心ケーブルの例。

## 効率を高める追加機能

## iOLM アドバンスド (iADV)

## リアルタイムのテスト結果

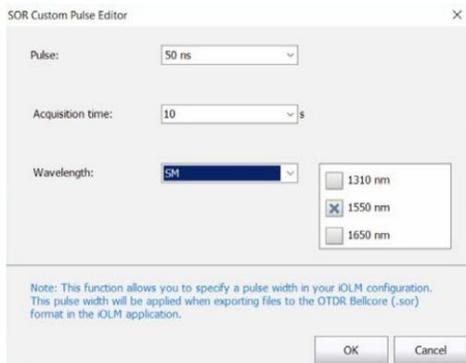
iOLM インターフェイスから直接、連続撮影モードで OTDR レーザーをアクティブにします。停止したりサブメニューに戻ったりすることなく、ユニットにその場でパラメータを調整させます。トレースはリアルタイムで更新されるため、ファイバーの突然の変化を監視できます。これは、徹底的な iOLM 特性評価を開始する前に、テスト対象のファイバの概要、破断までの距離、フィールド スプライシングの制御、または不明な障害のチェックに最適です。また、適切な設定を得るためにさまざまなインターフェイスやメニューを切り替える必要はありません。



ホイールをダイヤルすると、リアルタイムの取得パラメータをその場で調整でき、トレースへの影響を即座に確認して効率を最適化できます。特性評価を開始する準備はできていますか? 「iOLM の開始」ボタンを押すだけで、リアルタイムを手動で中断したり、メニューに入る必要はありません。

## 高度な SOR サポート

iOLM は、使いやすさを犠牲にしたり、動的なマルチパルス取得の使用から得られるパフォーマンスを制限したりすることなく、完全なジョブ コンプライアンスを提供します。iOLM は、最適なリンク特性評価のために無制限の数の取得を管理します。SOR ファイルレポートに要求されるパルス幅、平均時間、波長を入力するだけで、結果パッケージに追加されます。報告された SOR トレースを iOLM 上で直接確認することもできます。



クローズアウトパッケージの SOR に特定のパルス幅が必要ですか? iOLM にパッケージに追加するよう依頼してください。



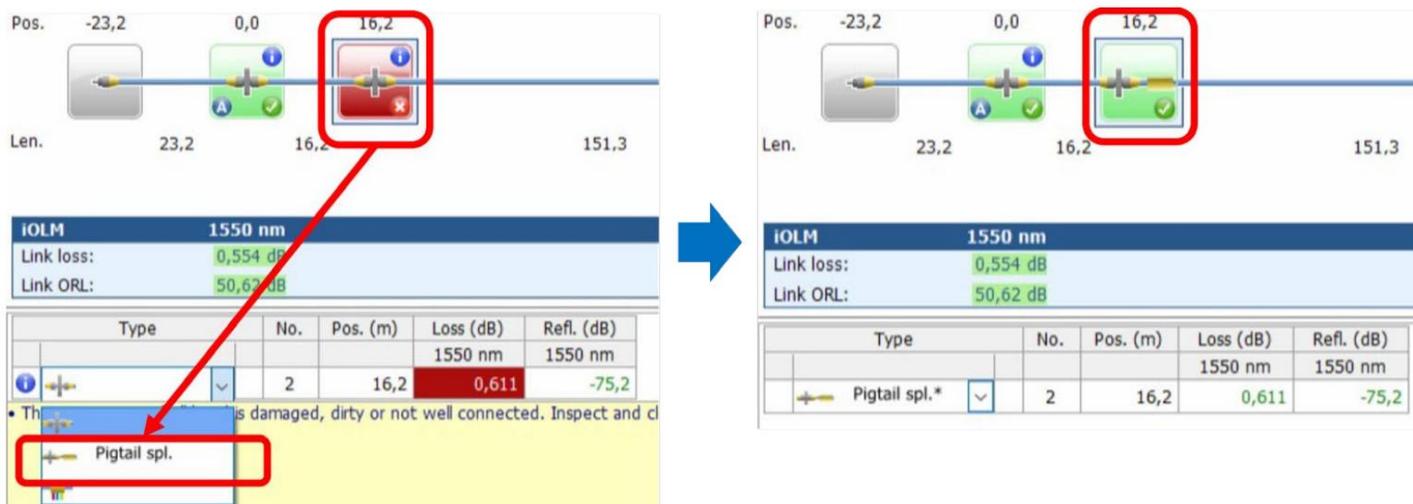
報告された SOR トレースを表示したいですか? iOLM に見せてもらうだけです。

## 2:N スプリッターの特性評価

iOLM は、複数入力または冗長ネットワークの明確な合否判定で 2:N スプリッターの特性を評価できる、市場で唯一のソリューションです。iOLM は 2:N スプリッターとその両方の入力ブランチを識別し、ユーザーが 1 回のテストでネットワークを正確に文書化できるようにします (従来の方法を使用した場合は 3 回のテストでした)。

## iOLMエキスパートモード

このモードは、レポート目的でトレース ファイルをより柔軟に文書化する必要があるファイバー テストの専門家または管理者を対象としています。独自のカスタム ネットワーク要素を作成し、特定のアイコンと独自のしきい値を定義して、ネットワーク プランとの適合性を高め、誤った障害を回避できます。たとえば、G.657 ファイバを G.652 ファイバ タイプに接続する場合、ファイバ コアの直径の不一致により、単方向 OTDR テスト (G.657-> G.652) で損失測定値が誇張されることが予想されます。これらのイベントを識別し、それに応じて緩和されたしきい値を適用できれば、接続特性評価のためのより拡張的な双方向測定アプローチに頼ることなく、誤った故障を回避できます。もう 1 つの一般的な例は、スプライスによる損失と嵌合による損失を組み合わせたスプライスされたピグテールコネクタです。



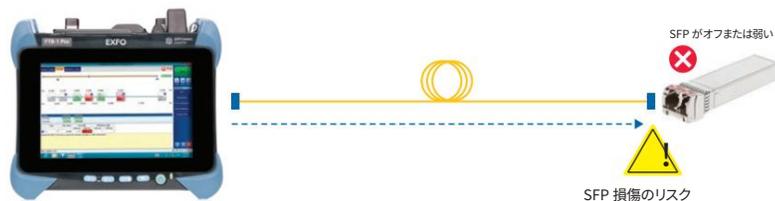
イベントを通常のコネクタ (上記の例ではしきい値 0.5 db) からカスタムの「ピグテール接続コネクタ」に変更すると、カスタム構築アイコンが表示され、ユニットはカスタムしきい値 (上記の例では 0.75 db) に調整されます。誤った失敗を避けることができます。変更された要素には、トレーサビリティのためにアスタリスク (\*) のタグが付けられます。

エキスパート モードでは、高度なトレース編集 (余分なイベントの追加と削除) やフィールドからのトレースの再分析も可能です。

## Optimode: SFP の安全なトラブルシューティング

## アプリケーション: 最大 100 km までの P2P トラブルシューティング、パッシブ CWDM/DWDM

SFP が遠端に接続されている可能性がある場合の P2P トラブルシューティングに最適です。技術者が派遣されたとき、技術者は何が問題なのかをまだ認識しておらず、制御されていないパルス幅により誤ってトランシーバーを損傷する可能性があります。EXFO の特許取得済みのソリューションは、このリスクを防止し、トラブルシューティング中に SFP に損傷がないことを保証し、コストを削減し、復旧までの時間を短縮します。



実際の動作を見る: [SFP セーフ モード](#)

## Optimode: PON ラストマイル認証

## アプリケーション: ラストマイル FTTH

ラストマイル認証に合わせて調整された Optimode は、顧客施設とスプリッターの間のすべての接続をテストします (スプリッターでの連続性を含まますが、スプリッター以降の要素は除きます)。

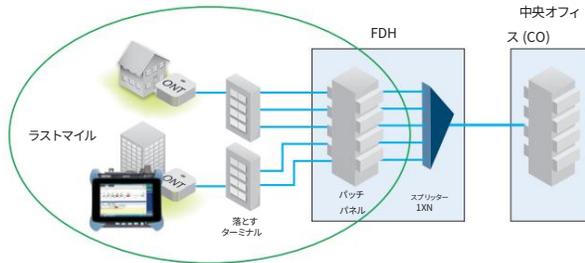


図 1. スプリッターでの連続性を含むラストマイル FTTH の認証。

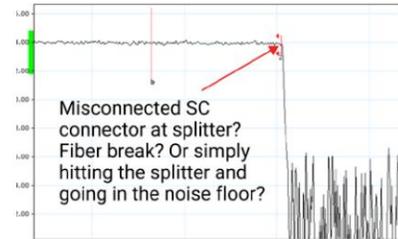


図 2. ラストマイルの OTDR トレース。

従来のラストマイル OTDR では、スプリッターはファイバーの端として示されます (図 2)。ただし、ラストマイルの距離を制御するだけでは、スプリッターが接続されていることを証明することはできません。Optimode は、ラストマイルのファイバーセグメントが実際にスプリッターに接続されていることを検証し、設置品質を確認します (図 3)。さらに、ライブポートを備えた OTDR により、このモードはダークファイバーまたはライブネットワークでも使用できます。

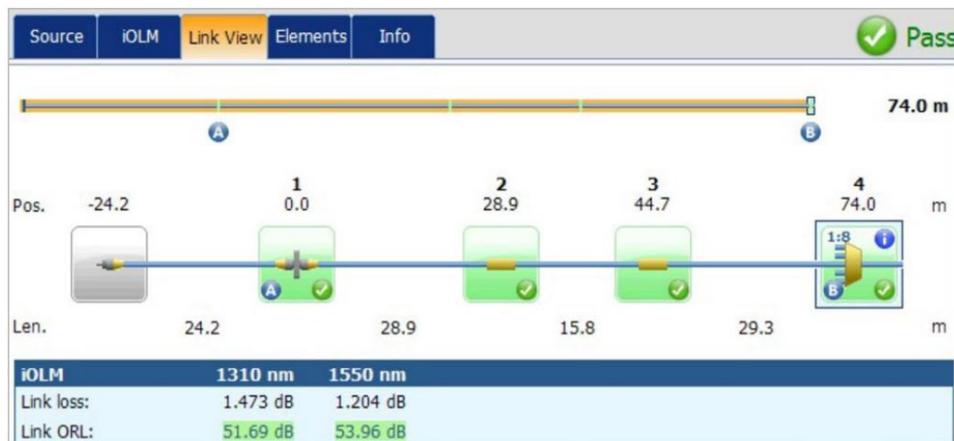


図 3. テストパス - ラストマイルの損失と ORL は仕様の範囲内です。スプリッターの存在が確認され、予想される比率と一致し、ファイバーへの連続性があります。ラストマイルの設置は保証されています。

仕様	マックステスター 715B	730C/735Cシリーズ	
測定時間 <sup>a</sup> (秒)	35	20	
最大リンク長 (km)	20	20	
ラストマイル ファイバーの最大長 (km)	5	5	
ラストマイルの最大ファイバー損失 (dB)	2.5	2.5	
スプリッターまたはグループ後の最小ファイバ長 (多段PONの場合)	1:2 スプリッター	30メートル	25メートル
	1:4 スプリッター	150メートル	100メートル
	1:8 スプリッター	400メートル	150メートル
	1:16 スプリッター	1500メートル	400メートル
	1:32 スプリッター	4500メートル	1000メートル
	1:64 スプリッター	-	3000メートル

a. 1 段スプリッターの場合、単一波長が一般的です。

## iLOOP

iLOOP を iOLM と併用すると、3 つの異なるテスト方法を使用して生産性と精度が向上し、双方向 OTDR 結果が得られます。1 つのソフトウェア ライセンスですべての状況に対応できるため、業務に適したツールを柔軟に選択できます。

### デュアルエンドの自動双方向結果 a, b

2 つのエンドツーエンド デバイスを使用すると、後処理やインターネット接続を必要とせずに、双方向の iOLM 結果を取得できます。本体からテストを開始し、iOLM を活用することでセットアップが簡単になり、エラーを回避できます。結果は通信ファイバーを介して両方のデバイスに転送されるため、両方の技術者はテストの進行状況と品質に関する最新情報を常に把握できます。完全なクローズアウト パッケージは、両方のデバイス上で現場で直接作成できます。

修理や修正は同日に行うことができるため、後処理で結果を待つ間にリソースを再デプロイする必要がなくなります。

### ループバック テスト モード iLOOP

機能を使用すると、ループバック シングルエンド測定を使用して 2 本のファイバを同時にテストすることで、iOLM のテスト効率を 2 倍にすることができます。この機能により、テスト時間が半分になります。アプリケーションは結果を 2 つの個別のリンクに分割し、後処理を待たずに個別の iOLM および OTDR (.sor) ファイルと PDF レポートを生成します。このオプションは、FTTA、分散アンテナ システム、Rx/Tx ファイバーを同時にテストできるデータ センターなどのアプリケーションで特に効率的です。

測定が完了すると、iLOOP は各単一ファイバーの合否を評価します。

双方向の結果は、ファイバ ループを同じ端から両方向でテストし、個々のファイバからの結果を組み合わせることで実現できます。

### 自動化された柔軟な双方向特性評価

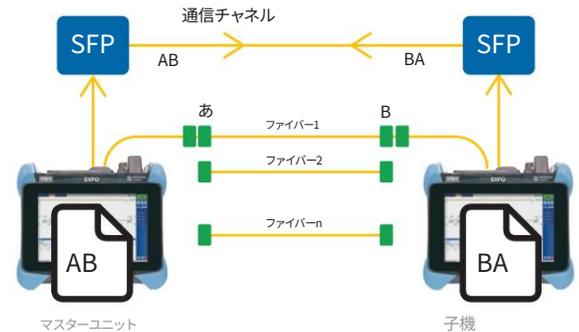
機器がインターネットに接続されている場合、ファイバーの両端からテストし、テスト結果をワイヤレスで共有することで、双方向の結果を得ることができます。双方向テスト ファイルは、オンサイトで後処理なしで両方のデバイスで利用できるため、追加のトラック ロールの必要がなくなります。

双方向クローズアウト パッケージの個々の結果 (後処理で結合される) を共有することで、オフラインでも同じ結果を得ることができます。これは、単一のデバイスを使用する 1 人の技術者が、ファイバーの両端から非同期で双方向テストを実行できることを意味します。

### あなたに適した双方向ソリューションはどれですか？

	iOLM ループバック	クラウドを使用した iOLM ワークフロー	デュアルエンド自動化 双方向
			
非同期テスト	✗	✓	✗
インターネットが必要です	✗	✓	✗
20~60kmのファイバー	✓	✓	✓
+60 km ファイバー	✗	✓	✓
デバイス上のインスタントデータ	✓	✗	✓
デュアルデバイスが必要です	✗	✗	✓
追加のハードウェアが必要	✗	✗	✓

iLOOP は、双方向テストのさらなる多用途性を提供します。それぞれのジョブに適したソリューションを選択してください。3 つのソリューションはすべて、ライセンスがアクティベートされるとすぐに利用可能になります。



iOLM でループバック テスト方法と iLOOP オプションを使用すると、2 つのファイバを同時にテストできます。A リンク、B リンク、またはループを含む完全な AB リンクのみを表示します。

## アイサート



## データセンターのマルチスタンダード認証

iCERT オプションは、iOLM を SM/MM ケーブルの自動合否しきい値を備えたインテリジェントな Tier 2 認証者に変えます。iOLM iCERT は、ファイバー設置業者が企業またはデータセンターのネットワークを複数のケーブル配線およびアプリケーション標準に対して同時に認証またはトラブルシューティングするのに役立ちます。したがって、国際的に認められた規格 (TIA-568、ISO 11801 など) に従ってケーブル配線を認証できるだけでなく、ファイバーが伝送できるアプリケーション (IEEE またはファイバー チャネル規格など) も認証できます。

事前定義されたケーブル規格がアプリケーションに組み込まれているため、テスト中にエラーが発生するリスクがなく、さまざまな標準団体のテスト要件に確実に準拠できます。

## 起動ケーブルと受信ケーブルの使用

EXFO は、iOLM のコネクタの損失を補うため、または UPC ネットワーク テストを可能にするために、ローンチ ケーブルを使用することを推奨します。

動的なマルチパルス幅アプローチのおかげで、最大 15 m のランチ ケーブルがほとんどのアプリケーションに適しているため、コンパクトでコスト効率の高いケーブルを使用できます。

ランチケーブルを使用すると、嵌合の数が減って機器のコネクタの寿命が延び、所有コストにプラスの影響を与えます。

特定のテストに適した発射ファイバーまたは受信ファイバーの長さについて疑問に思っていますか? iOLM は長さの範囲を推奨し、最適な結果を得るために発射および受信ファイバーの長さを調整できます。



Typical Test Fiber Lengths		
Select the expected loss for the measured link:		
Unknown		
According to the test configuration and the test method, the suggested lengths are:		
Test Fibers	Min.	Max.
Launch	15 m	5 km
Receive	15 m	10 km

## 囲まれたフラックスを使用した高速マルチモード ネットワークのトラブルシューティング



拡大するエンタープライズクラスのビジネスでも大容量データセンターでも、マルチモードファイバーで構築された新しい高速データネットワークは、これまでよりも厳しい許容範囲の下で動作します。障害が発生した場合、障害を迅速に発見して修正するには、インテリジェントで正確なテスト ツールが必要です。

マルチモード ファイバーは、テスト結果が各デバイスの出力条件に大きく依存するため、テストが最も難しいリンクです。建設ユニット以外のユニットを使用してトラブルシューティングを行うと、技術者の誤解を招いたり、障害を発見できなくなったりして、ネットワークのダウンタイムが長くなる可能性があります。

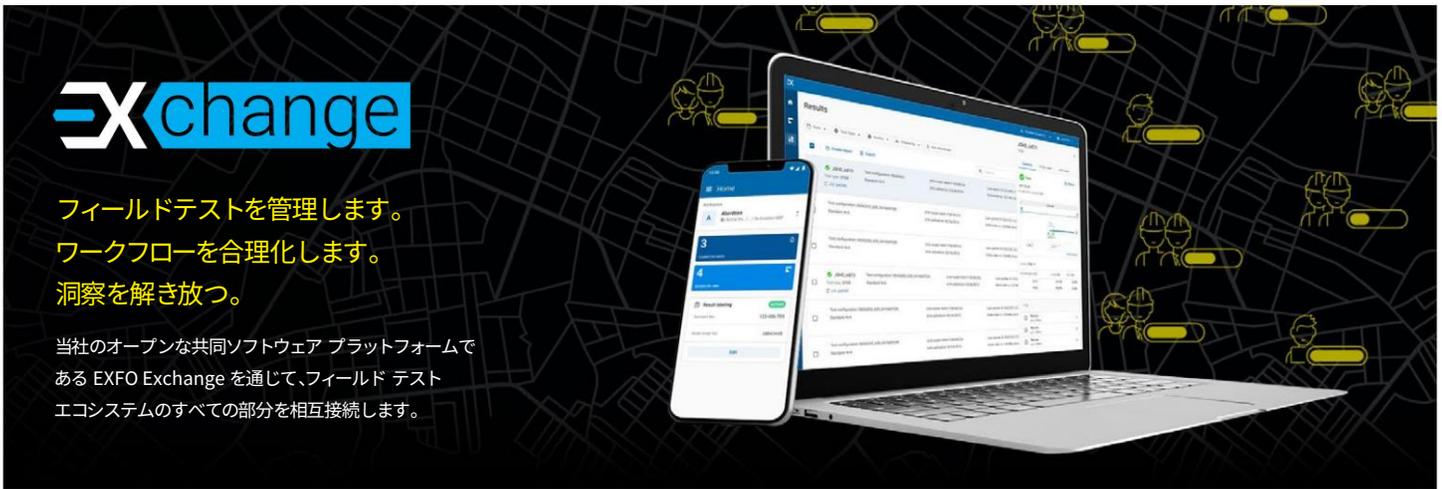
マルチモードファイバーの場合、EXFO は Encircled Flux (EF) 準拠の外部発射モードコンディショナーを使用することを推奨します。EF 標準 (TIA-526-14-B および IEC 61280-4-1 Ed. 2.0 を介して TIA-568 で推奨されている) は、ソース起動条件を制御して、Tier 2 のトラブルシューティングを最大の精度で実行できるようにする方法です。そして一貫性。

SPSB-EF-C30 などの外部 EF 準拠デバイスを使用すると、障害のあるネットワークを迅速かつ簡単に修復できます。

## iOLM のオプションと機能の概要表

バック/オプションの特徴		マックステスター				FTB-1v2/プロa、 FTB-2プロ、FTB-4プロ				
		MAX-715B	MAX-720C	MAX-730C	MAX-740C	FTBx-720C	FTBx-730C	FTBx-735C	FTBx-740C	FTBx-750C
iOLM標準	動的マルチパルス多波長取得	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	インテリジェントなトレース分析	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	シングルリンクビューとイベントテーブル	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	インテリジェントな診断	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	SOR トレースの生成	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	リンクごとに1つの iOLM ファイルを作成して簡単にレポートを作成	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	アンバランス/テーパー型 PON の特性評価とトラブルシューティング	✗	✗	✓	✗	✗	✓	✓	✗	✗
	Optimode:ショートリンククローズイベント	✓	✓	✓	✗	✓	✓	✓	✗	✓
	Optimode:高速ショートリンク	✗	✓	✓	✗	✓	✓	✓	✗	✓
	オプティモード:高速中距離	✗	✓	✓	✗	✓	✓	✓	✗	✓
iOLM アドバンストb (iADV)	リアルタイムOTDR	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	SOR パルスおよび波長エディター	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	SOR トレース ビュー	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	カスタム要素	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	高度なリンク編集と再分析	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	2:N スプリッターの特性評価	✗	✓	✓	✗	✓	✓	✓	✗	✓
	Optimode: SFP の安全なトラブルシューティング <sup>b</sup>	✗	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	Optimode: PON ラストマイル認証	✓	✗	✓	✗	✗	✓	✓	✗	✗
iLOOP b	iOLM ループバック (単方向および双方向)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	デュアルエンド自動双方向 iOLM c	✗	✗	✗	✗	✗	✓	✓	✗	✓
	ワークフロー管理ツールによるシングルエンド双方向 iOLM b,d	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
iCERT b	ケーブル認証オプション	✗	✓	✓	✗	✓	✓	✓	✗	✓

a. FTB-1v2/Pro シングル キャリアとデュアル キャリアが FTBx モジュールをサポートするようになりました。 b. シングルモードのみ、スプリッターなしの構成。 c. FTB ユニット (PCK-BIDIR120) ごとに1つのアクセサリキットが必要です。 d. テストフローが必要です。



# EXchange

フィールドテストを管理します。  
 ワークフローを合理化します。  
 洞察を解き放つ。

当社のオープンな共同ソフトウェア プラットフォームである EXFO Exchange を通じて、フィールド テストエコシステムのすべての部分を相互接続します。

## 主な利点



リアルタイムの可視性でオペレーションを結び付ける



ビジネスパートナーとのコラボレーションを強化し、信頼を構築する



自動化で効率を向上  
 プロセス



メンテナンスの削減  
 費用



ロックを解除する  
 何が重要かを理解するための洞察



### オフィスから

従業員や請負業者を EXFO Exchange の組織のワークスペースに招待します。  
 これにより、プロジェクトをより適切に整理し、ジョブの進行状況と MoP コンプライアンスをリアルタイムで前例のない可視化することができます。クラウドアウトパッケージの生成を最適化して、求人迅速にクローズし、より早く収益化/支払いを受け取ります。



### 畑から

チーム マネージャーに招待をリクエストすると、ジョブをより迅速かつ適切に完了し、結果を自動的に保存してリアルタイムで共有できます。

## 主な特徴

一元化され、整理されたデータ

簡単な統合

統合レポートサービス

プロセスオートメーション

コラボレーション



得る  
 始めました >



## OTDR/iOLM テスト用の APC コネクタの利点



他の OTDR と同様に、iOLM はユニットのポートでの強い反射の影響を受けます。低反射を確保し、測定精度を維持するには、iOLM シングルモード ポートを APC コネクタとともに使用する必要があります。APC コネクタを使用するもう 1 つの利点は、ユニットのパフォーマンスを維持しながら、反射率が高くなることなく、より過酷な条件に対応できることです。

一方、超研磨コネクタ (UPC) は、汚れたり、摩耗したり、損傷したりすると、反射率が高くなる傾向があります。これはシングルモード測定に影響を与え、コネクタの早期交換につながります。UPC ネットワークのテストに UPC ユニットは必要ありませんが、APC/UPC テスト ジャンパまたはランチ ファイバー (SPSB) を使用すると互換性が確保されます。

最良の結果を得るには、iOLM アプリケーションを使用する場合、シングルモード ポートでは APC コネクタが必須です。

## 注文情報

iOLM を使用して新しい機器を設定するには、選択したモデルの仕様書に記載されている注文ガイドを参照してください。

[www.EXFO.com/products/\\_ield-network-testing/bu3-optical/otdr-iolm-testing](http://www.EXFO.com/products/_ield-network-testing/bu3-optical/otdr-iolm-testing)

OTDR/iOLM 対応機器をアップグレードするには、次の手順を実行します。

ベースソフトウェア

Oi = 既存の OTDR アプリケーションに加えて iOLM 標準アプリケーションを有効にします  
 Oi2 = 既存の OTDR ソフトウェアを iOLM ソフトウェアに変換します  
 00 = 現在の基本ソフトウェアに変更はありません

iOLM ソフトウェア オプション

>00 = iOLM Standard ソフトウェア  
 iADV = iOLM Advanced を有効にする  
 iLOOP = ループバック テスト モードと自動双方向分析を有効にしますc,d  
 iCERT = iOLM Tier-2 ケーブル認証を有効にします

例: Oi-iADV-iCERT

XX-XX

- iOLM 対応機器のみ (ユニットに貼られた「iOLM 対応」ステッカーを探るか、EXFO にお問い合わせください)。お使いの機器が iOLM 対応でない場合は、アップグレード オプションについて EXFO にお問い合わせください。
- iOLM ベース ソフトウェアが必要です。
- シングルエンドの自動双方向分析には TestFlow が必要です。
- デュアルエンド自動双方向解析には PCK-BIDIR120 アクセサリー キットが必要です。

EXFO 本社

電話+1 418 683-0211フリーダイヤル+1 800 663-3936 (米国およびカナダ)

EXFO は、100 国以上で 2,000 を超える顧客にサービスを提供しています。最寄りのオフィスの連絡先の詳細については、[www.EXFO.com/contact](http://www.EXFO.com/contact) にアクセスしてください。

最新の特許マーキング情報については、[www.EXFO.com/patent](http://www.EXFO.com/patent) をご覧ください。EXFO は ISO 9001 の認証を取得しており、これらの製品の品質を証明しています。EXFO は、この仕様書に含まれる情報が正確であることを保証するためにあらゆる努力を払っています。ただし、当社はいかなる誤りや欠陥についても責任を負いません。また、義務を負うことなくいつでもデザイン、特性、および製品を変更する権利を留保します。この文書の測定単位は、SI 規格および慣例に準拠しています。さらに、EXFO の製造製品はすべて欧州連合の WEEE 指令に準拠しています。詳細については、[www.EXFO.com/recycle](http://www.EXFO.com/recycle) をご覧ください。価格と入手可能性については、EXFO にお問い合わせいただくか、最寄りの EXFO 販売代理店の電話番号を入手してください。

この仕様書の最新バージョンについては、[www.EXFO.com/specs](http://www.EXFO.com/specs) にアクセスしてください。

矛盾がある場合は、Web バージョンが印刷された資料より優先されます。